

第二次世界大戦時 越谷に存在した「軍需工場」

坂本 誠一郎

はじめに

高年になり越谷市移住の下名にとり、一般論として当時の国民学校・高等科の生徒が学徒動員された事実は承知であったが、今般改めて旧越ヶ谷町、大澤町の生徒の軍需工場への動員状況と、管見の限り、今までまったくの謎であった旧越ヶ谷町、大澤町に存在したという軍需工場の概要に関する調査を行った。

一 調査のステップと判明事項

1 越谷市の郷土の歴史が判りやすく記された『ときの風』⁽¹⁾を閲覧した結果、当時の「大澤国民学校」の話として「高等科の男子は勤労働員で越ヶ谷町の軍需工場で働かされてのです。女子も短期労働に従事したのです」との記載があったが、勤労働員先の工場名は不明であった。

2 旧越ヶ谷町、大澤町の軍需工場の名称を特定すべくインターネットでの検索の結果、『レファレンス共同データベース(埼玉県立久喜図書館)』⁽²⁾に、熊澤機械(株)の終戦後の事業内容の記載があったが、旧越ヶ谷町、大澤町の学校との関連は不明であった。

3 越谷市立大沢小学校元校長の田部井久能氏よりご紹介を頂いた『越谷市立小中学校沿革誌集』⁽³⁾等を閲覧した結果、旧越ヶ谷町、大澤町の軍需工場の記載があり、名前が判明した。

以下はその記載の説明である。

①越ヶ谷小学校では、

(ア)「昭和20年1月14日 学徒動員により高一・二年男女熊

澤工場(大作(筆者注)現赤山町五丁目)で奉仕する」⁽⁴⁾
②大澤小学校では、

(イ)「昭和20年1月 高等科男子生徒49名熊澤工場で勤労働員される。」⁽⁵⁾

(ウ)「1月16日より越ヶ谷町熊澤工場へ高等科男生徒が学徒動員通年動員として勤務す」⁽³⁾

(エ)「3月1日より20日まで大澤町徳村製帽所へ高等科女生徒、短期動員として勤務せり」⁽³⁾

(オ)「二十年一月には勤労働員で高等科生徒が男子は熊沢工場、女子は徳村製帽所へ行って終戦時まで苦労した」⁽⁶⁾

(カ)「昭和二十年八月十五日 正午大東亜戦争の終戦ノ詔書下ル 今上陛下「ラデオ」ヲ通シ 全国民ニ御放送遊ハサル 高等科ノ熊澤工場へノ勤労働員ハ八月十六日以テ終了セリ」⁽⁷⁾

※熊澤機械(株)の敷地内における「高等科生徒の勤労働員」の集合写真⁽⁸⁾がある。【

4 秦野秀明氏より、NPO法人越谷市郷土研究会会報『古志賀谷』⁽⁸⁾、昭和22年、24年の「空中写真」⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾を出典、根拠とした「東武電鉄からの引き込み線」が存在していた研究成果をご教示頂いた。

5 原田民自氏より、昭和24年の「空中写真」⁽¹⁰⁾のご提供を頂き、工場全体の建物・敷地の概要、及び秦野氏の研究成果である「東武電鉄からの引き込み線跡」も確認した。

6 何よりも重要な「当時の生の証言」を、郷土生れの郷土育ちの

染谷隼生氏、鈴木康史氏にお話しをお聞きした結果、熊澤機械(株)の情報に加えて、徳村製帽所の所在も確認することが出来た。

- 7 越谷市立図書館・さいたま地方事務局越谷支局・NPO法人越谷市郷土研究会・地誌研究倶楽部の方々より多くの情報(9) (24)を頂き、熊澤機械(株)の会社概要が判明した。

二 「熊澤機械(株)の会社概要」

- ① 設立年月日 昭和10年9月30日(13)(23)
本社所在地 当初の社は東京都新富町・工場は東京都南砂町(13)
- ② 昭和18年当時の資本金 90万円(24年時点 200万円)
【参考】(昭和18年当時、東武電鉄の資本金は4千530万円)株主総数 57名(11)(13)(23)
- ③ 越谷への移転は昭和16年頃(本社・工場ともに)(13)(16)
旧越ヶ谷町での所在地は越ヶ谷町上大作一六四五(14)(時の変遷で 一六三二へも)(23)
- ④ 代表者・熊澤政一・越ヶ谷工場長・近藤正巳(11)(12)(13)
- ⑤ 電話番号(越ヶ谷164・177)(14)
- ⑥ 生産品目(事業目的) 機械・車両・土木鉦山機械の製造
砕石機・セメントガン・道路輾壓機・小型蒸気機関車の生産(15)(16)(17)(23)
- ⑦ ラバウルのココボ博物館展示には、「熊澤機械(株)製造・海軍納め・圧石車の画像がある(18)。
- ⑧ 「越ヶ谷工場」の『工場建物・敷地の変遷』
(ア)昭和7、8年頃(14)、15年迄は、篠原鉄工であったこと

を確認した。

- ※ノコギリ合掌型屋根・高さ20m×4棟・社宅3カ所。
(イ)昭和16年頃(26年頃までが、熊澤機械(株)であったと判断した。

※蒸気機関車製造工場の建設【高さ20m・長さ25mの真つ黒で、凄い建物の由・東武電鉄越谷駅構内からの線路の引き込み線あり】

- (ウ)昭和24年頃一部と判断したが、「日本畜産興業(株)へ

詳細不明ながら、その後「越谷税務署」や「付近の住宅地」へ変遷したものと判断した。(19)(20)

- ⑩ 社員数(昭和23年当時) 219名(11)

- ⑪ 戦後は昭和22年頃より24年末までの労働争議の発生事実(21)(22)を確認した。

- ⑫ 越ヶ谷工場の閉鎖時期は詳細不明である。

私見ながら、収集資料の分析では、昭和26年頃迄は会社運営を行っていたものと判断した。

- ⑬ 昭和50年の会社閉鎖謄本(23)も入手した。清算人の登記があり、昭和29年頃には清算手続きに入ったものと判断した。

三 「徳村製帽所の概要」

- ① 所在地の特定が出来た。

- ② 製造当時の工場建物の目撃者を確認した。

- ③ 加えて「工場建物になる以前の写真」も入手した。

- ④ さらに、長老の衝撃的目撃談として、初等科5年生女子が戦鬪帽の「穴かがり」を学校で行い、40(50)cmの糸と針を渡さ

れ、使用する糸の長さや、使い過ぎ・足りない等の厳命に泣きだす生徒もいたとの情報入手した。

結びにかえて

快く資料のご提供頂いた方や、調査にご協力・ご支援を賜りました皆様へ、この紙面をお借りして衷心より厚くお礼を申し上げます。

注

(1) 坂田好朗編 (二〇一八) 『ときの風』

大沢地区コミュニティ推進協議会、八七頁

(2) 埼玉県立久喜図書館 (二〇一一)

「レファレンス共同データベース」

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000097211

(3) 越谷市教育委員会編 (一九六三)

『越谷市立小中学校沿革誌集』、十八頁

(4) ?編 (一九六九) 『越ヶ谷小学校沿革誌』、七頁

(5) 記念誌委員会編 (一九七八)

『越谷市立大沢小学校創立百周年記念誌』、二十一頁

(6) 注 (5) 二十九頁

(7) 越谷市立大沢小学校に伝わる『沿革誌 (毛筆書の原本)』

(8) 越谷市郷土研究会編 (二〇〇九)

『会報古志賀谷 第十五号』、一頁

(9) 空中写真 (USA R393 94)

撮影年月日 (昭和二十二年 (一九四七) 十月二十三日)

(10) 空中写真 (USA R522 7)

撮影年月日 (昭和二十四年 (一九四九) 一月十日)

などを含む「約14種類」の「空中写真」

(10) 空中写真 (USA R2808 4)

撮影年月日 (昭和二十四年 (一九四九) 五月十日)

- 1 越谷の軍需工場は、『越谷市立小中学校沿革誌集』⁽³⁾に記載の通り、「熊澤機械株」及び「徳村製帽所」の存在が確認できた。
- 2 今回は、紙面の関係で触れなかったが、越ヶ谷高等女学校の勤労形態は、軍需工場への学徒動員ではなく、「学校工場化」であった。
- 3 熊澤機械株は、当時の資本金額・従業員数・工場の広大な敷地・小型蒸気機関車及び海軍にも納入された圧石車等の生産技術力・東武鉄道へと繋がる引き込み線の保有・戦後の労働争議の概要・更に昭和50年頃まで続いた会社清算の記録等から、私見では、とても大きな力をもっていた会社・工場であったと判断した。
- 4 従って、もし日本の終戦が後少しでも遅れていたならば、熊澤機械株の技術力・広大な工場・生産能力等からすれば、越谷地区が空襲の被害に遭う事態が起こり得たかも知れないと痛感した。
- 5 現在までの調査において未完了で気がかりな点は、
 - ① 戦前・戦中での熊澤機械株の会社概要
 - ② 引き込み線の廃線(レール撤去)時期が不明な事で、継続テーマとして調査に取り組み所存である。最後に今回の報告取り纏めに際し、聞き取り調査でお世話になった**染谷、鈴木**の両氏、校閲に時間をさいて下さった**秦野氏**、
- 6

- (11) 埼玉県工業倶楽部編(一九四八)『埼玉県工場便覧』
- (12) 埼玉労働基準局編(一九五〇)『埼玉県事業場総覧』
- (13) 帝國銀行編(一九四三)『帝國銀行会社要録』

(国立国会図書館デジタルコレクション)

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1070941>

- (14) 埼玉県電気通信部編(一九五〇)

『埼玉県電話番号簿 昭和24年12月1日現在』

- (15) 「最新機器綜合型録(一九四七〜四八年)」

(国立国会図書館デジタルコレクション)

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1124464/1>

- (16) 臼井茂信(一九七六)『機関車の系譜図③』交友社、四二六頁

- (17) 「鉄道車両メーカー一覧」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

- (18) 「ラバウルのココボ博物館展示物」

<http://ki43.on.coocan.jp/oversea/rabaul/rabaul.html>

- (19) 『越ヶ谷町作成 昭和24年6月・越谷屠場移設関係』

- (20) 埼玉県立久喜図書館(二〇〇六・二〇〇九)

「レファレンス共同データベース」

「昭和20年代の埼玉県内(特に越谷市周辺)の

と畜場、進駐軍がと畜場に対して行った衛生面の

指導について」

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail1?page=ref_view&id=1000031823

- (21) 労働争議資料『越谷市史2通史下』

- (22) (一九四九)『労働埼玉 No. 22』

(埼玉県労働部労政福祉課編(一九八九))

『労働埼玉 復刻版1』
(一九五〇)『労働埼玉 No. 27』

(埼玉県労働部労政福祉課編(一九八九))

『労働埼玉 復刻版1』

- (23) 「会社登記簿 謄本(昭和50年10月の閉鎖謄本)」

- (24) 「法務局 旧公図」

「越ヶ谷町字上大作一六四五」、「大澤町字町並三八一八」



高等科生徒の勤労働員

↑ 戦時中の「熊沢機械(株)」と推定される写真
記念誌委員会編(1978)
『越谷市立大沢小学校創立百周年記念誌』p. 21
より引用